

芦屋市教育振興基本計画総括表

重点目標	取組の方向性	施策	事務事業	実施状況(成果指標を含む)		課題・方向性	指標	指標状況		総合評価	区分	
				取組内容	評価			H21	H26			
1 「豊かな人間力」を はぐくむために、考 える力や創造性を 伸ばす教育を進め ます	(1)基礎的・基本的な知 識・技能を活用する学力 向上方策の充実を図り、 「確かな学力」を確立し ます。	基礎的・基本的な知識・技能を活用 した思考力・判断力・表現力を 育成します	☆学力向上パワーアッププラン・ 学力向上研究支援プランの改善 と充実(改善) ☆兵庫型教科担任制の推進(県 事業) ☆適正な学級編制規模の検討 ☆学力向上に係る授業研究会の 開催	・学力向上パワーアッププラン及 び学力向上研究支援プランによ り、学力向上に向けた校内研修や 公開授業に取り組む。 ・小中連携の核に中学校合同授 業研究発表会を位置づけ、効果 的な小中連携のあり方について 協議する。 ・兵庫型教科担任制による効果的 な学習指導を実施する。	「学力パワーアッププラン」「学 力向上研究支援プラン」につい ては、学校にとってより研究が 進めやすいものとなるよう、研 究指定の有り方も含めて検討 する。 各学校においては、効果的な 少人数指導の有り方も含め、 「活用力」の伸長を目指した指 導の研究に、引き続き取り組 む。 中学校合同授業研究発表会だ けでなく、小中学校の教員が複 回数、小中学校間を相互訪問 できる体制づくりを進める。	全国学力・学習状 況調査の結果 国語の授業で、目 的に応じて資料を 読み、自分の考えを 話したり書いたりし ている。(どちらかと いえば、している)	小:57.6% 中:39.3%	本市 小:60.6% 中:51.8% 全国 小:61.4% 中:56.1%	概ね良 好	継続		
			2 児童生徒の学力・学習状況を把握 するため、全国学力・学習状況調 査、又は市独自の学力調査を継 続的に実施します。あわせて、そ の結果から児童生徒の学力や学 力と学習状況の関係等を分析、検 証し、課題の改善に向けた取組を 支援します。	☆全国学力・学習状況調査の実 施(国・市事業) ☆市単独の学力調査の検討	全国学力学習状況調査の結果を 分析し、児童生徒の学習成果と課 題を把握するとともに、授業改善 に活用する。(平成25年度)	小中学校ともに、毎年、全ての教 科で全国平均を上回っており、「十 分に評価できる結果」となってい る。知識を活用する力について は、課題もあるため、引き続き、そ の克服に取り組む必要がある。 質問紙調査結果についても、学習 習慣、生活習慣に関して評価でき る点が多いものの、いくつか課題 も読み取れる状況である。	各学校は、調査結果を十分に 分析し、課題を明らかにすること で、その後の自校の教育実 践の改善に反映させるようにす る。 教育委員会においても、市全 体の児童生徒の学習面、生活 面での課題把握に努め、その 改善に向けた具体的な施策を 実施する。	全国学力・学習状 況調査の結果 全国の平均正答率 を100としたとき 115以上を「極めて 良好」 105以上115未満を 「良好」 95以上105未満を 「おおむね良好」	小(国A):良好 小(国B):極めて良 好 中(国A):良好 中(国B):良好	小(国A):良好 小(国B):良好 中(国A):おおむ ね良好 中(国B):おおむ ね良好	良好	継続
			3 児童生徒の学力に応じた有効な 指導を推進します。	☆学力に応じた指導法の研究 ☆学習指導員(チューター)の配 置 ☆大学との協定による教育ボラン ティアの配置	・新学習システムにより少人数指 導、同室複数指導により、学力に 応じたきめ細かな指導を実施 ・学習指導員(チューター)や理科 推進員を配置し、学習課題のある 児童生徒への個別指導を実施 ・大学生を教育ボランティアとして 配置し、学習課題のある児童生徒 の学習支援を実施	チューターの全校配置につい ては、児童生徒の学力格差の解消と 学習に対する意識向上に大きな効 果があることが、配置効果を検証 する調査結果に表れている。 学生ボランティアによる学習指導 補助によって、配慮を要する児童 生徒の基礎的学力定着に向けて、 きめ細かな対応ができた。	チューターや理科推進員、学生 ボランティアによる、より効果的 な指導・支援について、今後も 研究を行っていく必要がある。 また、チューターの配置効果を 検証する調査の実施方法や結 果の分析方法についても、より よい方法を検討していきたい。	全国学力・学習状 況調査の結果 数学・算数 授業が好き(どちら かというとう好き)	本市 小62.6% 中61.6%	本市 小67.6% 中61.7% 全国 小61.6% 中56.6%	良好	継続
			4 中学生の進路希望実現に取り組 みます。	☆ガイダンス機能の充実 ☆進路講演会の充実	生徒の興味関心、適性に応じた 進路指導を計画的、組織的に実 施するとともに、選抜制度と高校 通学区を保護者、生徒に周知す る。	進路担当者会等で情報交換を丁 寧に進めてきたことで、学区変更 にとまなう生徒、保護者、教職員の 間での混乱は見られなかった。学 区の拡大により生徒にとっては、 興味・関心に応じた進路選択の幅 が広がった。	校務支援システムを活用し進 路事務の効率化を図り、生徒・ 保護者に対しこまめな面談、丁 寧な説明、適切な資料による進 路指導を実践する。 昨年度の選抜結果をもとに、よ り詳細な進路指導資料の作成 に着手する。	公立高校全体の卒 業生に対する割合	61.5%(平成25年 度)	62.90%	良好	継続
						通学校区変更に よって進学可能と なった学校の公立 高校全体の進学者 に対する割合		3.40%	良好	継続		